

R2主事招聘研究授業【英語】リフレクションシート				令和2年度
日付	令和2年7月21日	回答者数	10	竹富町立船浦中学校
教科(学年)	英語(2年)	【本時のめあて】 I can pass the immigration.		
授業者 氏名				

小中連携共通実践事項 ◎…よくできている ○…できている △…あまりできていない

		評価			備考
		◎	○	△	肯定的回答
1	学習用具を忘れずに準備することができる。	100%	0%	0%	100%
2	授業が始まる時刻には、席に着くことができる。	90%	10%	0%	100%
3	授業のあいさつで3秒礼ができる。	50%	50%	0%	100%

授業マネジメント(船中スタンダード) ◎…よくできている ○…できている △…あまりできていない

	項目			評価			備考
	三本柱	校内研主題		◎	○	△	肯定的回答
4	学びに向かう力・人間性	深い学びへ	生徒は、『めあて』に向けて、「やってみたい」と思って学習に取り組もうとしている。	90%	10%	0%	100%
5	知識・技能	深い学びへ	生徒は、『まとめ』の段階で、その時間で何を勉強したのか整理する力が身に付いている。	0%	88%	13%	88%
6	知識・技能	深い学びへ	生徒は、『振り返り』の活動で、その時間に勉強したことを自分の言葉で表し、振り返る力が身に付いている。	0%	50%	50%	50%
7	学びに向かう力・人間性	主体的	生徒は、「もっとできるようになろう」、「もっと考えてみよう」としている。	100%	0%	0%	100%
8	思考力・判断力・表現力	主体的	生徒は、「自分で考える」ことができる。	60%	40%	0%	100%
9	思考力・判断力・表現力	対話的	生徒は、自分の考えを「友人や先生に伝える」ことができる。	80%	20%	0%	100%
10	思考力・判断力・表現力	対話的	生徒は、友人や先生の考えを聞いて「自分の考えを見直したり、広げたりする」ことができる。	40%	60%	0%	100%

○よかったところ ・オールイングリッシュの授業でICTの効果的な活用があった。・スピーチさせるときにヒントとして語数を教え指で示してから言わせていたのは、分かりやすくてよかった。・生徒達は課題に対し、集中して取り組み、じっくりと考えていた。積極的に質問もしていた。・机間指導でそれぞれの生徒を注意深く観察し、見取り、支援していた。・「場の設定」があり具体的であった。・ペア活動やロールプレイ(入国審査)・導入部でのペアはよかった。支援を要する→全員参加する授業につながった。 ・常に授業で発言しやすい雰囲気がある。・先生との関係性がよく、やり取りが積極的。・ロールプレイが楽しそうだった。・声に出して発表しようとする姿勢が見られた。・生徒達が何をするのか理解していた。・教材の準備が素晴らしい。 ・本文のリスニング、音読から取り組んで、入国審査で尋ねる質問が分かり、言えるようになっていました。・ワークシート、パワーポイントで何をやり取りするのか分かりやすかったです。・やってみたいと思えるような題材で取り組むことで、生徒自身が主体的に学ぼうとしている姿が見られました(ロールプレイにも楽しそうに取り組めていました)。 ・教材、教具がとてもリアルに作られており、現実に近く、ロールプレイに入り込めたと思います。 ・時事のEnglish newsの提示がよかった。・常活動として(?)のウォーミングアップがよかった。・聞く、話す(読む)、書くどの活動も盛り込まれていた。・教科書の文を聞き取るときに、何度も(計5回)聞けるのは安心感につながる。・語数のハンドサインは、簡単に分かりやすく、応用が利くよい手段。・4カ国のパンフレットが行きたくなる魅力的な資料だった。・宿題を授業から出す流れがGood。 ・なんと言っても教材準備がパーフェクト。・オールイングリッシュでテンポよく進めている。・「パーフェクト!」など生徒への自然な声かけがやる気を引き出している。・Planを立てるための教師の教材・教具がすごい。・「6つのWord」などヒントの与え方が分かりやすくてよい。・ICTの活用がよかった。・入国審査の場面で自分の意見をまとめ、発表し、通ることができていた。	●改善点 ・タイムマネジメントとして、まとめ、振り返りまでできたらもっとよかった。もったいなかった。→宿題として課題を出したのはよい。・willとbe going toの使い方について、対話的にロールプレイの時間がもっとあればより深まったと思う。 ・入国審査をもっとリアルにしてはどうだろうか。・誕生日が書かれているカード。 ・書けていない生徒に対しての支援。ペアに相談できている人とできていない人がいて気になる。 ・タイムマネジメント ・Yさんはまだ言語活動で言うまではできていなかったもので、表現練習をしてもよかったかもしれません。・思っていた以上に行きたい国に偏りがありました。最初でこの国で何したい?でもよかったかなと思いましたが(Hさんは2カ国を書いていました)。 ・生徒が入国審査の部分をもっと時間が取れるとよかったと思います。・be going toの文はよく出ていましたが、willの文があまり出ていなかったもので、willの文が出る工夫があってもいいのかなと思います。 ・先生の細かい問いかけに対して、目立って返事する生徒が流れを作ってくれているが、なかなか大きくしゃべれていない生徒にスポットライトを当てることも必要だと思う(Rさん、Hさん)。 ・ロールプレイ中の補足は、できるだけ減らしたい。・めあての達成というより、旅行計画立てに寄っていたかな(楽しくて)。 ・ワークシートの番号を埋める場面でSさんがフリーズしていたので、机間指導で見えあげるとよい。・やり取りの質問や受け答えの例示(板書やカード)があると、苦手な生徒への手助けになるかも(耳で聞くのが苦手な子への手立て)。
---	---

その他 ・いつも英語の授業を生徒達は意欲的に、そして楽しく授業に臨んでいる。そうなると授業づくりを今後お願いしたい。 ・プランニングの時間を3分与えたら、守らせる努力(もしくは延長申請する)など、生徒自身がタイムマネジメントする力も育てたい。 ・入国審査官と旅行者のペアワーク(ロールプレイ)の時間をもっと確保してあげたい(ロールプレイのスタートが、授業の残り10分だった...)。 ・審査官はなぜ入国審査をするのか、どのような視点で審査しているのかなど、最初に補足があるとよりリアルに近づいたのかな。 ・先生とのデモから実際にロールプレイするまでの間が割と長かった。→このときに「めあて」を振り返って、先生が(ロールプレイ終盤で)「So, I can pass.」など言ってもよかった。 ・旅行者のバランスを整えるために、あらかじめ幾つかの国の資料の枚数を制限(各国2~3枚など)してもよかった。 ・新指導要領を踏まえた指導案(とくに評価規準等)としても参考になった。 ・忙しい中での研究授業、準備大変だったと思います。お疲れ様でした。	【授業者の振り返り】 ・単元の教材研究・準備・教材教具の工夫が生徒の主体性を引き出すには不可欠であることが改めて感じることができた。教科に対して苦手意識を持つ生徒を取り残さないためにも、授業中での観察を指導に還元させる必要がある。(指導と評価の一体化) ・習得と活用を繰り返すことが深い学びにつながるということから、インプットとアウトプットのバランスを計画的にデザインすることが大切である。 ・外国での旅行の計画を立てる際、教師が用意したパンフレットではなく、生徒自身が自分で見つけた国でできることを考える自由な発想に頼った方がより主体的に意欲的な活動につながるだろう。
--	--